

917C型（型式BJ72/BL72） 工事説明書

目次

安全上の注意事項	2
工事概要	4
梱包内容	5
設置に必要な部材及び工具	6
設置場所について	7
本体外形寸法	8
設置工事の注意	8
工事手順	10
1. 吸排ユニットの取り付け用の穴開け（外壁及び浴槽の穴開け）	10
2. 吸排ユニットの取り付け	11
3. 本体の配管・排水口の配管	12
4. コントロールパネルの取り付け	13
5. 電気の配線・アース工事	15
6. 配線の確認	15
7. 試運転	15
8. 動作確認	17
9. 保温材工事	18
10. 「熱水注意」シールの貼り付け	18
11. 防水カバー・ブレーカフタの取り付け	18

本機の設置には、専門知識と専用工具が必要です。お客様が設置工事をされ、不備があると、感電や火災、水漏れの原因となります。設置はお買い上げの販売店にご依頼ください。

917C型 (型式BJ72/BL72) 工事説明書

屋外設置用・屋内（浴室外）設置用

- 本機の機能を十分に発揮できるように、本工事説明書の手順に従って正しい工事を施工してください。
- 事前に設置場所、工事内容についてお客様と打ち合わせのうえ、決めてください。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いいただくようお客様にお伝えください。

蛇の目ミシン工業株式会社

安全上の注意事項

- 工事の前に、この「安全上の注意事項」をよくお読みのうえ据え付けてください。
- 設置工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
- 正しい設置および正しい使いかたをされなかった場合の製品の故障、事故については、当社は責任を負いませんのでご了承ください。
- 注意事項はいろいろな表示をして説明しています。表示の意味は下記を参照してください。

危害、損害の程度を表わす表示



警告

この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

危険の内容や回避方法を表わす表示の例



絶対に行わないでください。（禁止事項）



必ず指示にしたがい、実行してください。（強制事項）



警告



1. 設置は、工事説明書にしたがって確実に行ってください。
設置が不完全な場合は、感電、火災、本体転倒などによるケガ、水漏れの原因になります。



2. 本機の設置場所、および電気工事については「電気設備技術基準」にしたがってください。



3. 接地（アース）工事は、接地工事説明書にしたがって必ず行ってください。
法令によりD種接地工事（旧第3種接地工事）が義務づけられています。（接地工事の種類によっては、電気工事士有資格者の工事を必要とする場合があります。）
接地工事による接地抵抗は200Ω以下とします。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線などに接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電、火災の原因になります。

	4. 電源コンセントは、屋外専用の、抜け止め機構付き防水コンセントを使用してください。抜け止め機構付きコンセントは差し込んでから時計方向に回して、確実にロックしてください。感電、火災、故障の原因になります。
	5. 既存のコンセントを利用する場合、コンセントの定格容量を確認してください。不足の場合は、コンセントを増設してください。本機はAC100V(50Hz/60Hz)で、約11Aの電流が流れます。不足すると、分電盤のブレーカが動作したり、火災、故障の原因になります。(電気店に増設を依頼するか、電気工事士有資格者により増設してください。)
	6. コンセントの刃受け部がゆるんでいたたり、緑青(ろくしょう)が発生している場合は、コンセントを新品に交換してください。火災、故障の原因になります。(電気店に交換を依頼するか、電気工事士有資格者により交換してください。)
	7. 延長コードは使用しないでください。感電、火災、故障の原因になります。
	8. 電源コードは、きつく束ねたり、袋に入れないでください。電源コードが発熱し、火災の原因になります。
	9. 電源コードおよび通信コードは、直接地面の上にたすような配線をしないでください。また、ドア・窓等の可動部に配線したり、はさみ込んだりしないでください。コードの表面が傷むと、感電、火災、故障の原因になります。
	10. 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わないでください。万一ガスが漏れて本体の周囲に溜ると、火災の原因になります。
	11. 設置は、重量に十分耐えられる場所に、工事説明書通り確実に行ってください。また、本体はアンカーボルトで固定してください。設置に不備があると、地震等により転倒し、ケガ、水漏れの原因になります。
	12. 本機設置場所の水はけが悪く、浸水しやすい場所は基礎工事で、本機を高くしてください。本機が浸水すると感電、火災、故障の原因になります。
	13. 本機と浴槽の配管工事は吸込側、吐出側ともそれぞれ1m以上の絶縁パイプで行ってください。電気技術規程「内線規程」により義務づけられています。
	14. 吸込口は、当社指定のものを使用してください。指定以外のものを使用すると身体や髪の毛が吸い込まれ、おぼれたり、ケガのおそれがあります。
	15. 吐出口は、浴槽の水面より下に設けてください。
	16. 本体は、浴室に設置しないでください。本機は、屋外または屋内(浴室外)設置用です。
	17. 排水口は、工事説明書にしたがい、確実に排水できるところに工事してください。排水口からは熱水が排出されます。工事が不確実な場合は、やけどや家財等を濡らす原因になります。
	18. 排水口は浴室内に導かないでください。排水口からは熱水が排出されるので、やけどの原因になります。
	19. 点灯中のダブル制菌管ユニットは、紫外線を発生していますので絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。
	20. ダブル制菌管ユニットの光を皮膚に当てないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。
	21. 本機、(電源コード、通信コードおよび操作パネル、その他本システム用設備等を含む)の分解や改造を行わないでください。感電、火災、やけど、疾病、故障の原因になります。
	22. 試運転の前に、必ず漏電ブレーカの動作を確認してください。確認していないと、万一の故障や漏電のとき感電や火災の原因になります。

⚠ 注意

- ❗ 1. 浴槽、配管部材などを加工した場合、手に触れる部分は必ずバリおよびエッジを取り除いてください。
- ❗ 2. 工事の際に出た浴室内の切りくず等は、必ず掃除して取り除いておいてください。排水穴がつまり、浸水の原因になります。
- ❗ 3. 配線等で壁に開けた穴は、シーリング材やキャップで防水処理を行ってください。不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になります。
- ❗ 4. 屋内に設置した場合、防水パンなどを設置し、各ドレンおよび排水口は確実に排水溝などに導いてください。漏水対策が不完全な場合は、家財等を濡らす原因になります。
- ❗ 5. 工事の際、浴槽はシートなどでカバーし、傷がつかないように注意してください。
- ❗ 6. 既存の浴槽を使用する場合、本機使用前の浴槽の状態を確認してください。浴槽表面に荒れ、ふくれ、変色などがある場合は、お客様にもご確認していただいでください。
- 🚫 7. 運転中および運転停止直後は、熱いのでダブル制菌管ユニットに触れないでください。やけどのおそれがあります

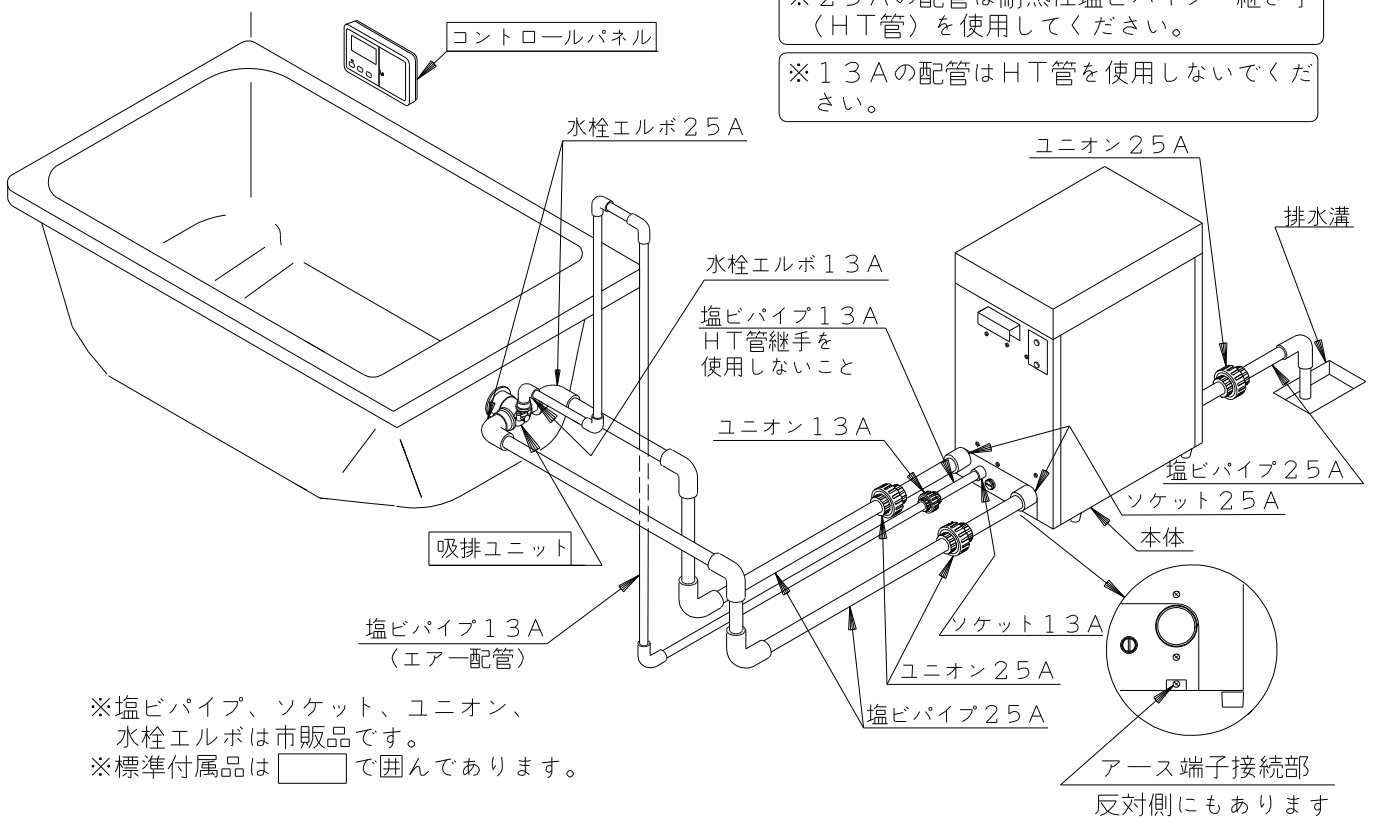
設置には以下の工事があります

工事概要

- 外壁及び浴槽の穴開け
- コントロールパネルの取り付け
- 吸排ユニットの浴槽への取り付け
- 電気の配線・アース工事
- 本体の配管・排水口の配管
- 保温材工事

※ 25 Aの配管は耐熱性塩ビパイプ・継ぎ手（HT管）を使用してください。

※ 13 Aの配管はHT管を使用しないでください。



※塩ビパイプ、ソケット、ユニオン、水栓エルボは市販品です。
 ※標準付属品は で囲んであります。

自動熱洗浄について、下記内容をお客様に必ず説明してください。
















1. 自動熱洗浄を行うと、終了するまで約90分かかり、そのあいだに熱水（50～70℃）を断続的に排水口から排水します。自動熱洗浄中は入浴したりしないよう、またやけどのおそれがあるため排水口に近づかないようお客様によく説明してください。特に小さなお子様がいるご家庭は注意するように説明してください。
2. 自動熱洗浄を行うと、浴水が約30ℓ排水されます。自動熱洗浄をする前に浴槽に湯を足しておくことをお客様に説明してください。
 ※詳細は取扱説明書〔自動熱洗浄〕の項を参照してください。

○ 梱包内容

開梱時、この工事説明書の他に、下記の部品が同梱されているか確認してください。

★印はBL72専用

☆印はBJ72専用

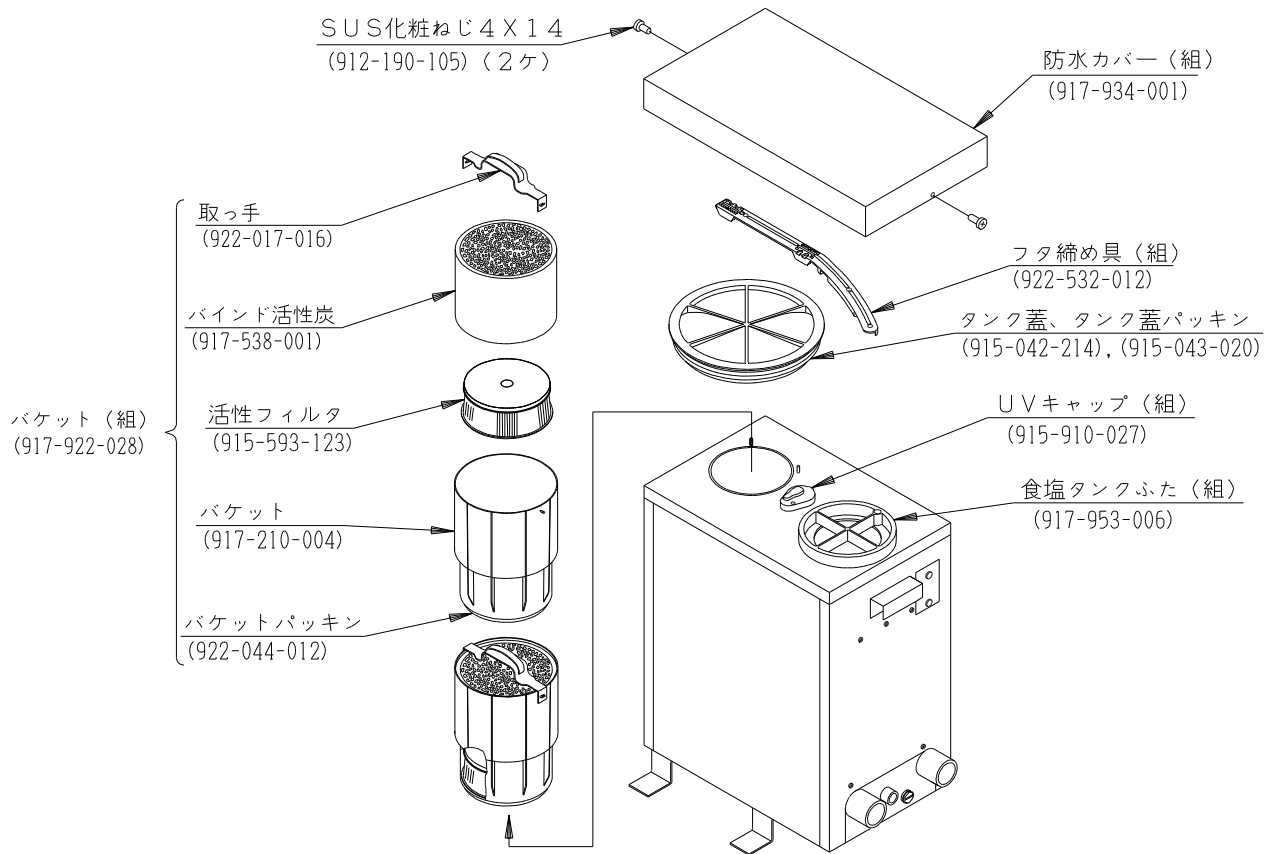
品名 品番	員数	備考及び外観
吸排ユニット	1	 パッキン付き
浴槽パッキン(大) 917-171-013	1	 (白)
スリーブパッキン(大) 917-172-003	1	 (乳白色)
フィルターケースフランジ	1	 (ネジ付)
ストレーナ 917-168-006	1	
1穴式吸排ユニット(組) +バインドタップタイトねじ3x10 000-198-707	4	
プレフィルターケース 917-069-110	1	 プレフィルターケース(組) (917-970-010)
プレフィルターケース蓋 917-070-125	1	
ヘアキャッチャーシート 917-274-006	1	
918-943-006		
電線管16 916-083-003	1	
コントロールパネル(組) BJ72: 917-963-009 BL72: 917-973-002	1	
コードカバー 916-017-006	1	
カバー取付板 916-018-007	1	
フォーエース4A-628K 912-128-025	4	
+字丸木ねじ 3.5X38 000-199-605	4	
+バインド小ねじ 3X6 000-078-331	3	
ナイロンクリップ SL-4N 000-126-106	1	

品名 品番	員数	備考及び外観
蓋締め具(組) 922-532-012	1	
プレフィルター(組) 917-539-002	1	
CLパック12袋入り(組) 917-540-202	1	
取扱説明書 BJ72: 917-831-030 BL72: 917-832-031	1	
熱水注意シール 917-111-004	1	 熱水注意!
☆ 定期お手入れ契約のお勧め 917-829-002	1	
☆ 申し込み葉書 917-836-002	1	
★ 吸排取付具(樹脂) 917-170-001	1	
★ 保守連絡用シール 911-804-025	1	
★ 保証書 911-801-402	1	
★ 消耗部品ご注文のご案内ペラ 917-833-009	1	
★ 接地工事説明書 915-815-010	1	
★ 愛用者ペラ 915-846-009	1	
★ 愛用者カード 915-847-022	1	
★ プライバシー保護シール 922-100-006	1	
★ コンセント注意事項ペラ 917-858-000	1	

吸排ユニットの吸込口と吐出口がわかれているストレートタイプ
(2穴式)のセットは下記

吐出口・・・ジェットユニット(後)(組)品番:916-633-015
吸込口・・・吸湯ユニット(後)(組)品番:917-969-005

オプション



○ 設置に必要な部材及び工具

設置に必要な部材

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 塩ビパイプ 25 A (HT) (循環用) 塩ビパイプ 13 A (VP) (エア配管用) エルボ 25 A (HT) (循環用) エルボ 13 A (VP) (エア配管用) ユニオン 25 A (HT) (循環用) ユニオン 13 A (VP) (エア配管用) 水栓エルボ 25 A (HT) (循環用) 水栓エルボ 13 A (VP) (エア配管用) T Sソケット 25 A (HT) (循環用) T Sソケット 13 A (VP) (エア配管用) | <ul style="list-style-type: none"> 土台ブロック 保温材 (25 A用) 補修用シール材 シールテープ 外壁補修材 塩ビパイプ用接着剤 ビニールテープ |
|--|---|

設置に必要な工具

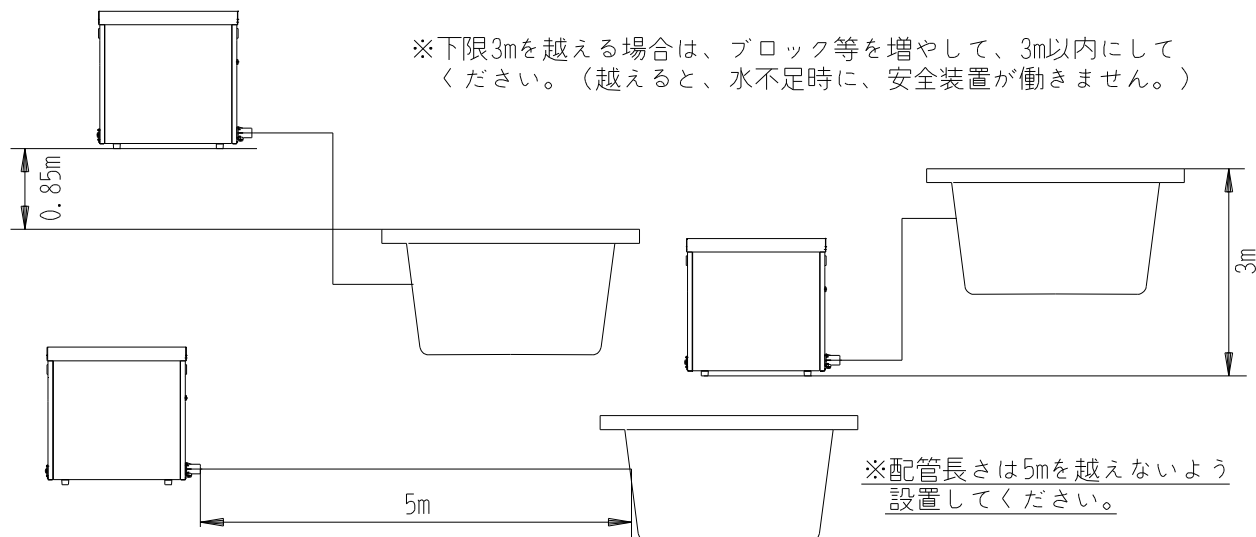
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 電気ドリル モンキレンチ のこぎり パイプレンチ インシュロック コードリール 金切りのこ サンダー ハンマー 水平器 コアドリル (φ100mm) (外壁穴開け用) ホルソー (φ48mm~φ50mm) (ホーロー、ステンレス用) コーキングガン (シリコンコーキング) | <ul style="list-style-type: none"> アーステスタ スパナ 塩ビカッター ダイヤモンドカッター はつり工具 プライヤー ニッパー カッター ドライバー |
|--|--|

※25 Aの配管は耐熱性塩ビパイプ・継ぎ手 (HT管) を使用してください。
 ※ユニオン等のゴムパッキンは、フッ素ゴム仕様のものを使用してください。

(電気技術規程「内線規程」により絶縁パイプを使用することが義務づけられています。
 (またH I塩ビパイプを使用すると配管部が変形することがあります。)

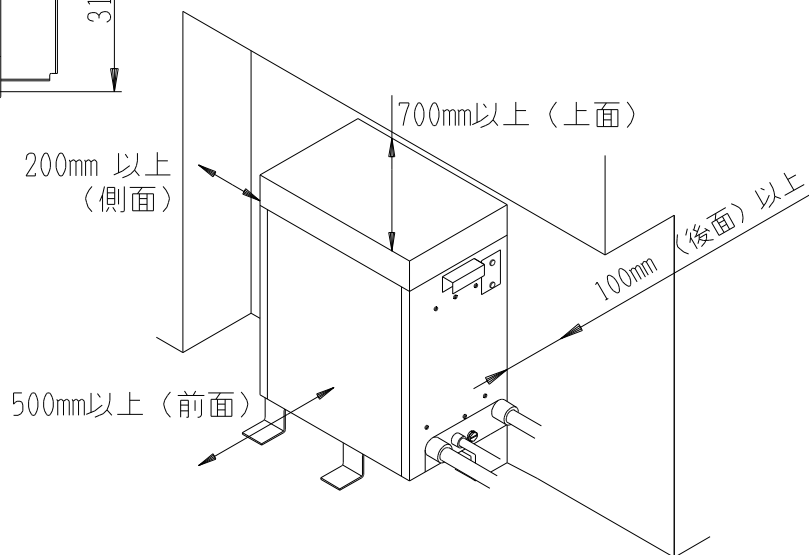
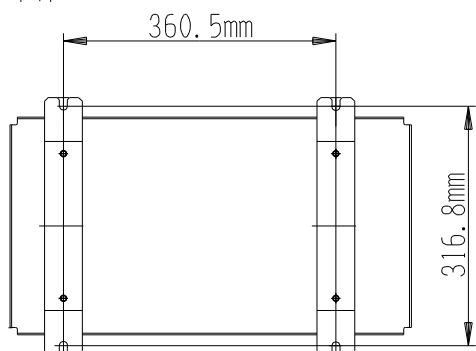
○ 設置場所について

1. 本体の設置高さについては、浴槽の縁から本体の下端まで上限0.85m、下限3m以内としてください。
また最長配管長さは、5m以内としてください。

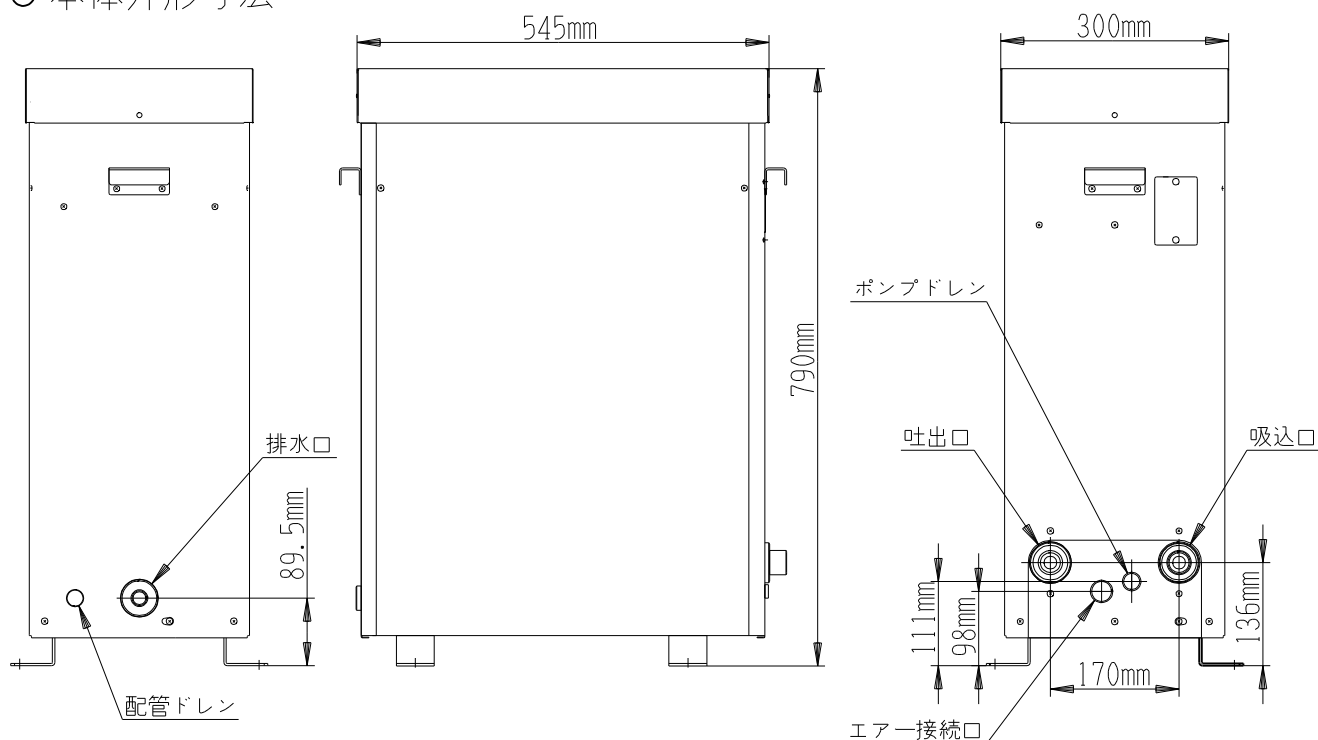


2. 本体のまわりは、メンテナンスのためのスペースを必ず確保してください。
特に本体上部は、ろ過材の出し入れができるスペースを必ず確保してください。
本体は、ブロック等の土台の上のせて地面より100mm程度の高さを持たせてください。
3. 本体はアンカーボルトで固定してください。
※アンカーボルトの取付位置は、下図のアンカーボルトの位置図を参考にしてください。
またアンカーボルトはM10を使用してください。


本体



○ 本体外形寸法



○ 設置工事の注意

1. 設置場所は、「電気設備技術基準」にしたがい決定してください。
2. 本体は、浸水のおそれのない水はけのよい場所に設置してください。
本機は、浴室専用機です。浴室へ本体を設置しないでください。
3. 積雪が予想される地域では、本体が雪に埋没しないような処置をしてください。
4. 海岸地域では、塩害を受けないような処置をしてください。
5. 保温性をあげるため、できるだけ風があたらないような場所を選ぶか、または囲い等によりあたらないような処置をしてください。
6. 電源コンセントは、防水及び抜け止め機構の付いたものを使用してください。(図1)
抜け止め機構付きコンセントは差し込んでから時計方向に回して、確実にロックしてください。 
7. 電源コード及び通信コードは、地面をはわせないでください。外壁等にコードクリップ等で固定してください。(図1)
8. 熱洗浄時には、排水口から約30リットルの熱水(最高70℃)が排水されます。
排水により、やけどなどの危険がないように確実に排水溝に導いてください。
また排水の配管にバルブ等を設けなくて、常に開放状態にしてください。
9. 吐出口は圧力開放を行うため、バルブ等を設けなくて常に浴槽と本体が接続されているように配管してください。
10. 2.5Aの塩ビパイプ、継ぎ手類は、必ず耐熱性塩ビパイプ・継ぎ手(HT管)を使用してください。
バルブ、ユニオン等のゴムパッキンは、フッ素ゴム仕様のものを使用してください。EPDM等のゴムを使用すると、水漏れやエア吸いすることがあります。
11. 塩ビパイプの接着には、塩ビ接着用の接着剤を使用してください。接着剤は、耐熱性塩ビパイプ(HT管)接着用のものを使用してください。またねじ部を接合するときはシールテープを巻いてください。
12. 2.5Aの塩ビパイプ配管部には、屋内、屋外部分ともに、保温材を巻いてください。
13. 2.5Aの塩ビパイプの配管部が長くなるときは、サドルや立バンドなどで支持してください。(図1)
パイプが自重で変形することがあります。
また配管部を固定するときは無理な力がかからないように注意してください。接着部のはがれなどの原因になります。

14. 本体を浴槽より低い位置に設置するときや、配管がトラップするときは図2のように外部配管（2ヶ所）に水抜き用のバルブを設けてください。バルブは配管部の一番低い位置に設けてください。（図2参照）
※水抜き用のバルブを設けないと、メンテナンス時に配管内のすべての水抜きが行えずに長期運転停止時に凍結したり、水の腐敗の原因になります。
15. 接地（アース）工事は、必ず行ってください。工事の詳細については、別紙「接地工事説明書」を参照してください。
16. 13Aの塩ビパイプ（エア用配管）は、浴槽にできるだけ近い所かつ浴槽縁から300mm以上逆トラップをかけて配管してください。（図3）
17. 浴槽の吐出口は、必ず浴水面より下になるような位置に取り付けてください。
うたせ湯など吐出口から空中に吐水させるような設置は、入浴者が浴槽水を誤飲する原因になるので行わないでください。
18. 浴槽の吸込口は、必ず当社指定のものを取り付けてください。
※指定以外のものを使用すると身体や髪の毛が吸い込まれ、おぼれたり、ケガのおそれがあります。
19. 配管用に開けた外壁の穴は、メンテナンスに必要なため、脱着可能な方法でふさいでください。（新築の場合も同様）

図1

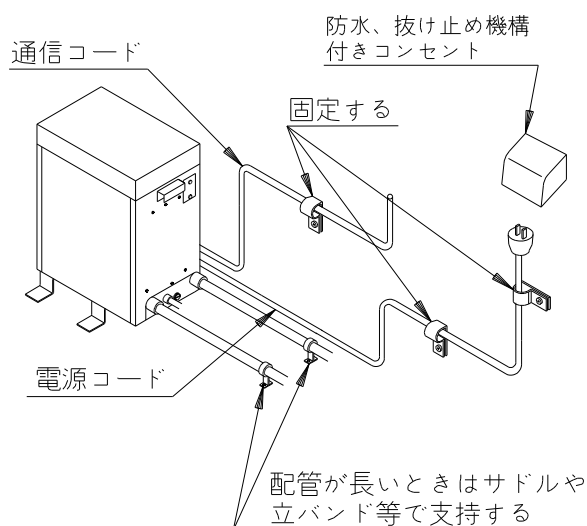


図2

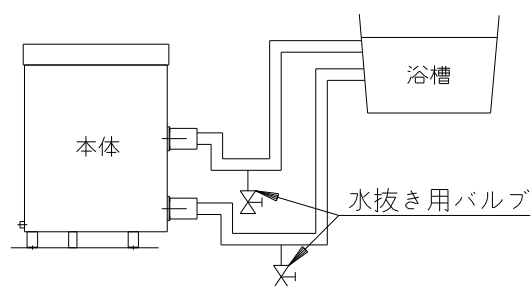
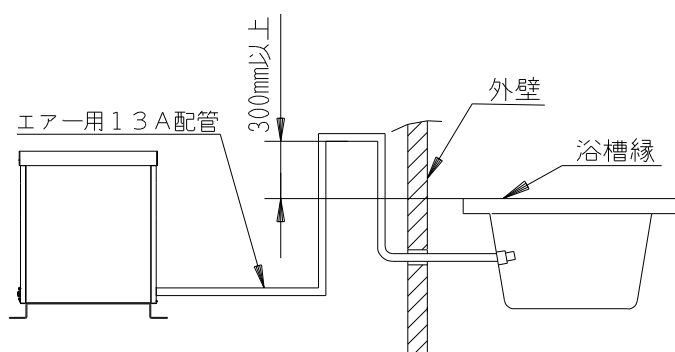
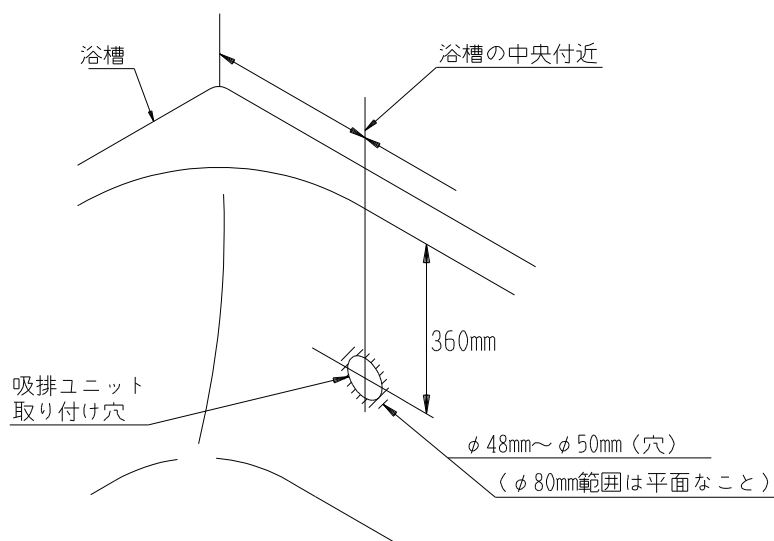


図3

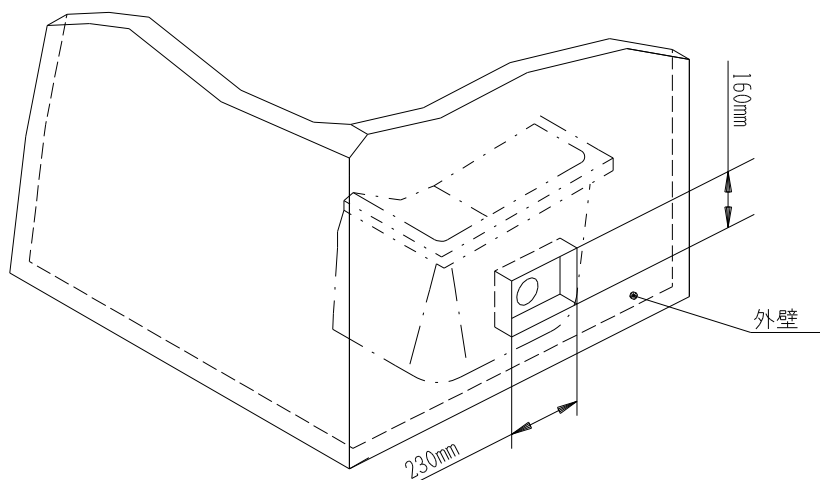


工事手順

1. 吸排ユニットの取り付け用の穴開け（外壁及び浴槽の穴開け）



- ① 浴槽の中央付近、浴槽縁から360mm下に吸排ユニット取り付け用の穴の位置決めをする。
※普段お客様が入浴していない状態での浴水面がわかる場合、浴水面と吸排ユニットの中心が160mm以上離れていることを確認してください。
(浴水面と吸排ユニットの中心が160mm以下の場合、吸排ユニットが水面より出やすくなり、エア吸いで本体が『水不足』運転停止になる恐れがあります。)
※浴槽の裏側の穴の中心からφ80mmの範囲が平面であることを確認し、保温材が付着しているときは、はがして取り付け面をたいらにしてください。

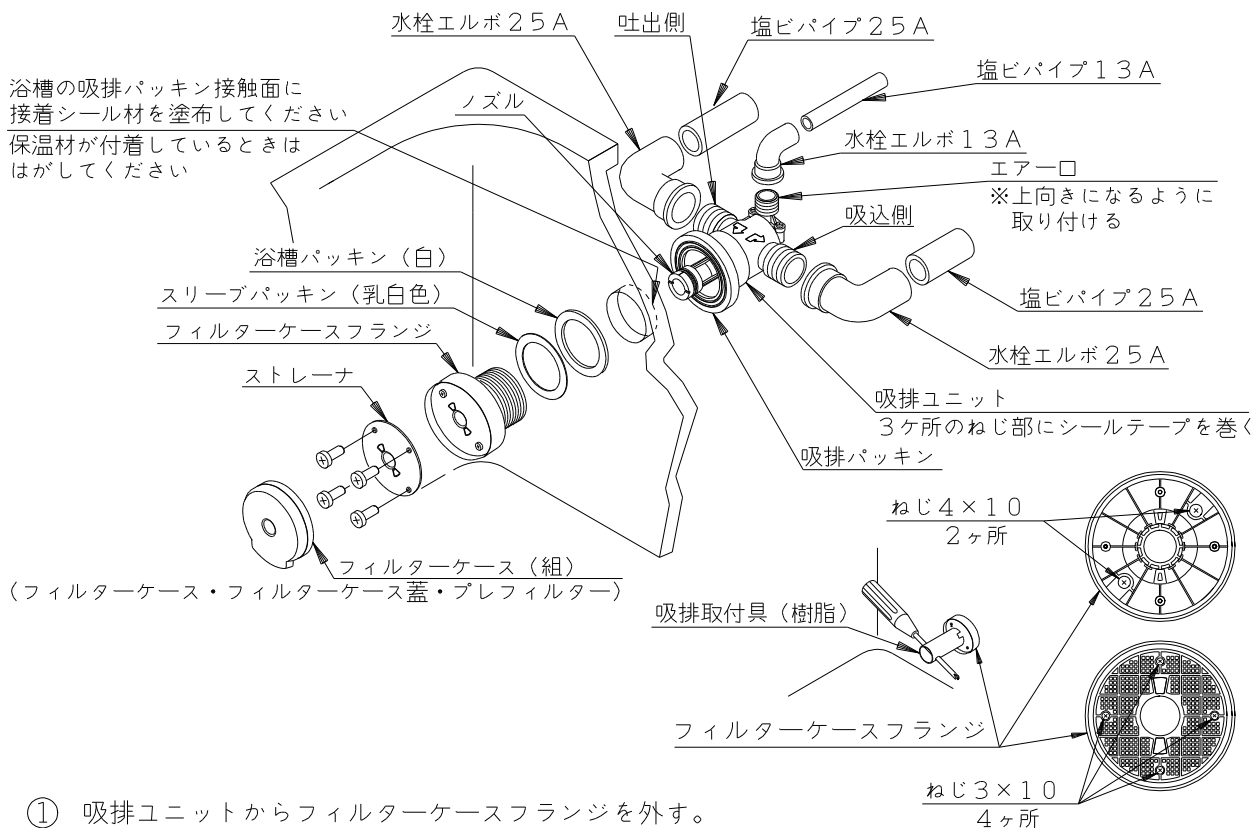


- ② 浴槽に位置決めをした穴の中心が中央になるように、幅230mm、高さ160mmの穴を浴室壁と外壁に開ける。
※浴槽に位置決めをした裏側に、水道管や支柱などが無いことを確認してください。うしろに障害物があると配管できません。
- ③ 浴槽に位置決めをした所を中心にφ48mm~φ50mmの穴を開ける。
※浴槽の材質が金属で錆びるおそれのあるものには、防錆処理を穴開け部にしてください。

2. 吸排ユニットの取り付け

(25Aの配管は、耐熱性塩ビパイプ(HT管)を使用してください)

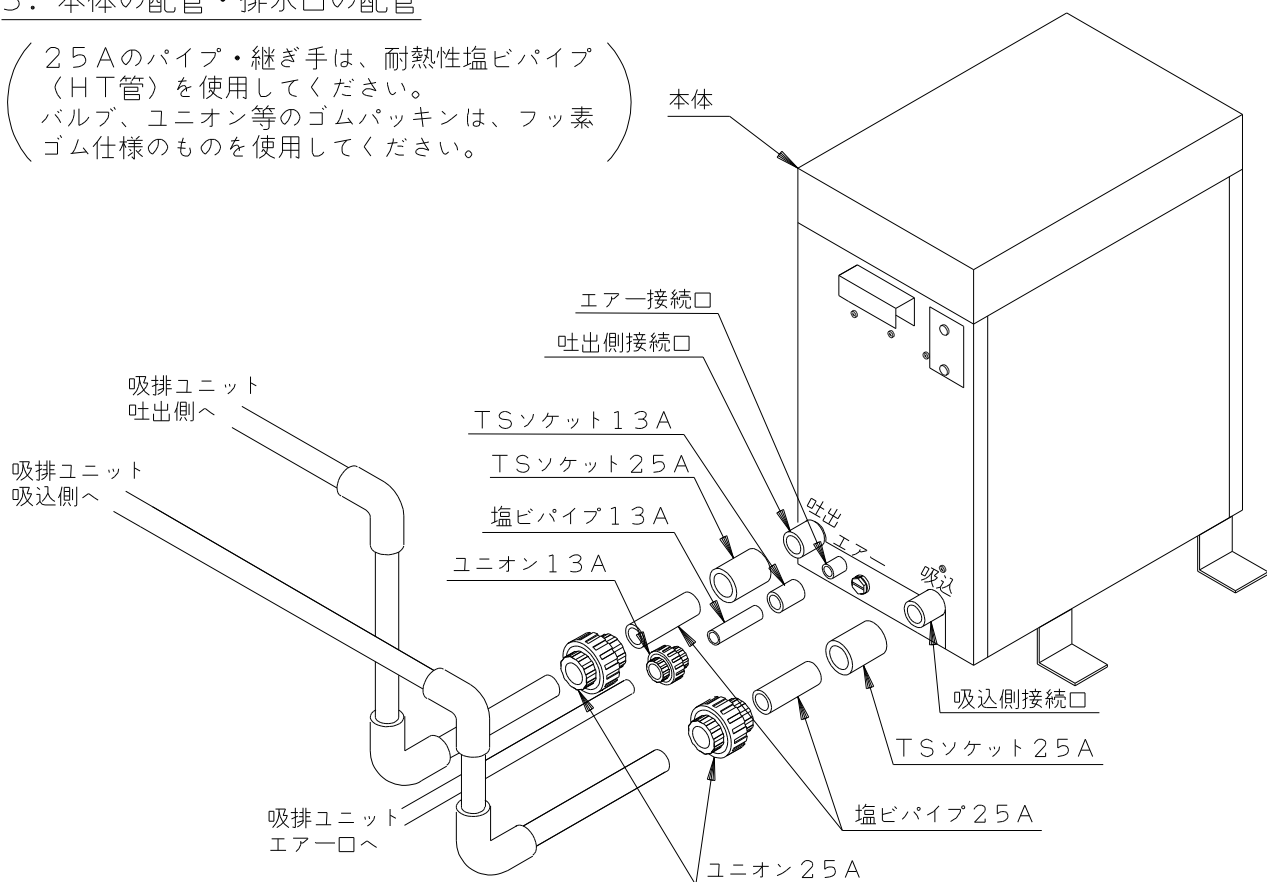
- ・吸排ユニットがスペースなどの制約で取り付けにくいときは、吐出側ユニットと吸込側ユニットがわかれていたタイプ(2穴式)のものが 있습니다。(工事概要の「梱包内容」表の欄外参照)



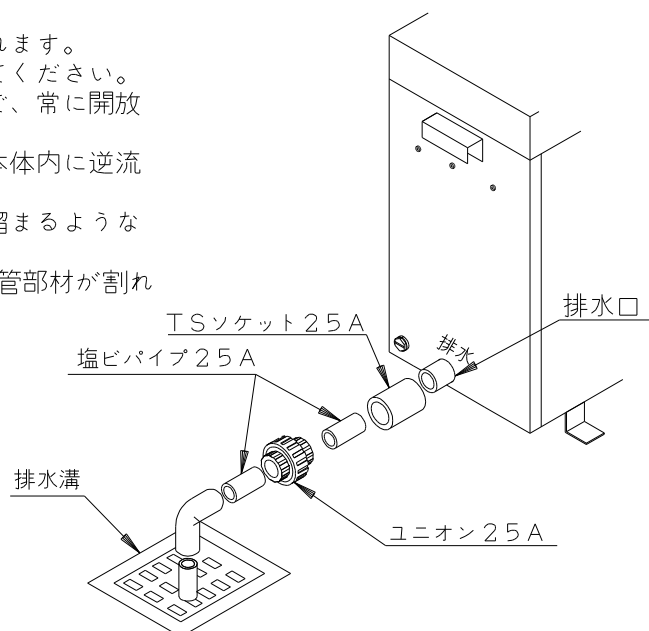
- ① 吸排ユニットからフィルターケースフランジを外す。
- ② 吸排ユニットの吸込側と吐出側のねじ部にシールテープを巻き、水栓エルボ25Aを図のような向きに取り付ける。
吸込側と吐出側の水栓エルボ25Aに塩ビパイプ25Aを接着する。
※塩ビパイプ25Aは吸排ユニットを取り付けたとき、屋外に突き出るように適当な長さにしておいてください。
- ③ 吸排ユニットのエアークにシールテープを巻き、水栓エルボ13Aを図のような向きに取り付ける。
水栓エルボ13Aに塩ビパイプ13Aを接着する。
※塩ビパイプ13Aは吸排ユニットを取り付けたとき、屋外に突き出るように適当な長さにしておいてください。
- ④ 浴槽の吸排パッキン接触面に、水まわり用シリコン接着シール材を塗る。
(浴槽の内側には塗らない。)
- ⑤ フィルターケースフランジを、浴槽に開けた穴に、浴槽をはさみこむように図の順に吸排ユニットにねじ込んで取り付け、フィルターケースフランジを吸排取付具(樹脂)で締め付け後、仮入れされているねじ4×10(2ヶ所)を増し締めする。
※ねじ4×10は、仮入れ状態のまま浴槽に取り付け後、増し締めする。
(締め付けトルクは、100N・cm(10kgf・cm)) 増し締めしないと、フランジが緩み水漏れする場合があります。
※フィルターケースフランジの締め付けトルクは、1000N・cm(100kgf・cm)です。
※浴槽の厚さが12mmを越える場合は、オプション「ロングフランジ穴セット(917406102)」を使用してください。締め付け量が浅いまま工事しますと、水漏れの危険がありますのでご注意ください。
※吸排ユニット(組)はエアーク(ねじ止めしてあるところ)が上向きになるように組み付けてください。
- ⑥ フィルターケースフランジにストレーナを取り付け付属のねじ3×10(4ヶ所)で締め付ける。
※ねじ3×10の締め付けトルクは、30N・cm(3kgf・cm)です。
- ⑦ フィルターケース(組)を取り付ける。

3. 本体の配管・排水口の配管

（ 25 Aのパイプ・継ぎ手は、耐熱性塩ビパイプ（HT管）を使用してください。
バルブ、ユニオン等のゴムパッキンは、フッ素ゴム仕様のものを使用してください。）

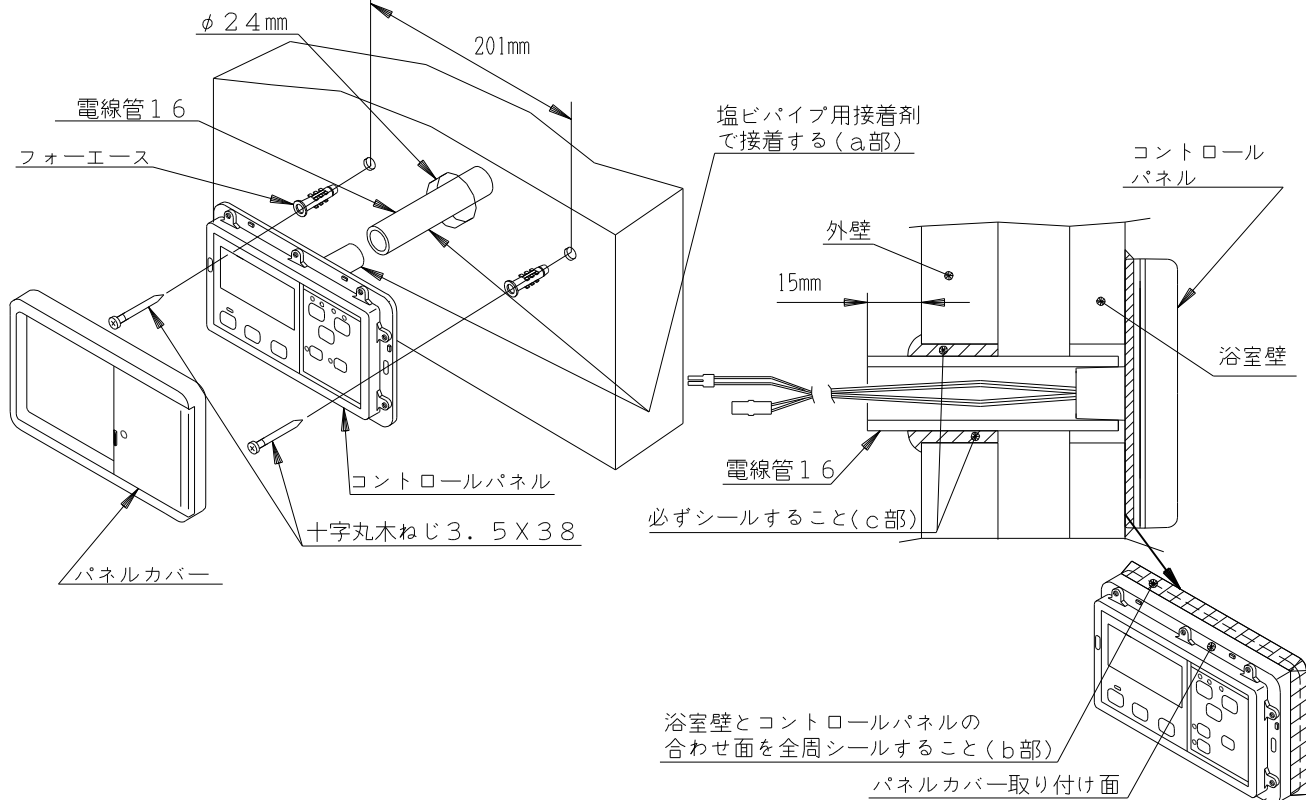


- ① 本体を水平に設置し、アンカーボルトM10（4ヶ所）で固定する。
- ② 本体の吸込及び吐出口にTSソケット25A、塩ビパイプ25A、ユニオン25Aの順に取り付ける。
- ③ 本体のエア吸込口にTSソケット13A、塩ビパイプ13A、ユニオン13Aの順に取り付ける。
- ④ 本体のエア吸込口と吸排ユニットのエア吸込口を接続する。
※エア吸込用の13Aの塩ビパイプは、必ず逆トラップをかけて配管してください。
（**工事概要**「設置工事の注意」16.項参照）
- ⑤ 本体の「排水」と表示のある排水接続口に、ユニオン25Aを取り付けて塩ビパイプ25Aで浴室や台所の排水が流れ込む排水溝に導く。
※熱洗浄のときには、熱水が排出されますので排水口は危険のないように導いてください。浴室内に排水口を導かないでください。やけどの原因になります。
※熱洗浄のときは約30リットルの湯が排出されます。
排水用の配管は、水はけのよいところに導いてください。
※排水の配管には、バルブ等を絶対に設けなくて、常に開放状態にしておいてください。
※排水溝等に配管したとき、排水溝側の排水が本体内に逆流してくるような配管は、行わないでください。
※配管は、自然に水が流れ出るようにし、水が溜まるような配管にしないでください。
（配管内に水が溜まったままだと、凍結して配管部材が割れたり、溜まった水が腐敗したりします。）

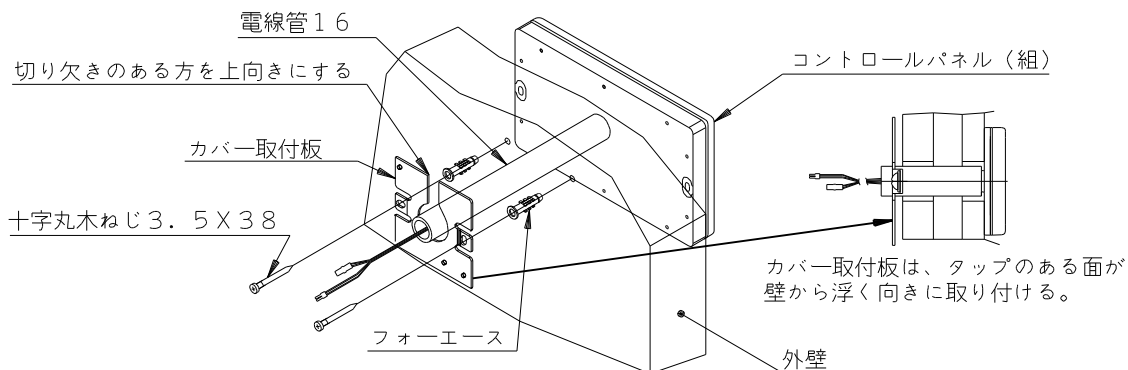


4. コントロールパネルの取り付け

コントロールパネルは、直接水のかかるような場所はさけてください。



- ① 壁にコントロールパネル裏側の電線管16を通す穴(φ24)を開ける。
- ② 電線管16をコントロールパネルのパイプ部に差し込み、外壁側から15mm突き出す位置で切断する。
※このとき、コードを切らぬように電線管16は、コントロールパネルから外してから切断してください。
- ③ コントロールパネルと電線管16を塩ビパイプ用の接着剤で接着する。(a部)
- ④ パネルカバーを外し、コントロールパネルを浴室の壁に十字丸木ねじ3.5X38で取り付ける。必要に応じてフォーエースを使用する。
※フォーエースの下穴はφ6.4mmです。
- ⑤ 浴室の壁とコントロールパネルの合わせ面を図のようにシリコン接着シール材でシールする。(b部)
※このとき、パネルカバー取り付け面にシリコン接着シール材がはみださないようにしてください。
- ⑥ パネルカバーをもとどおりに取り付ける。
- ⑦ 外壁の穴と電線管16の隙間をシリコン接着シール材でシールする。(c部)
- ⑧ コントロールパネルの裏側に出ている電線管16が通るようにカバー取付板を壁に固定する。壁への取り付けは、必要に応じてフォーエースを使用する。
※カバー取付板は、切り欠きのある方が上向きになるように取り付けてください。

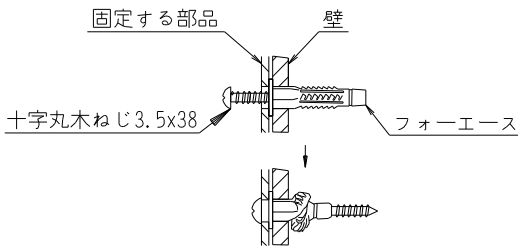


フォーエースの下穴、ねじ込み方

① 壁の向こう側が抜けている場合

下穴径---6.4mm

※締め付けが初めは堅く一旦ゆるくなって、再びやや堅くなるまで締め付けます。



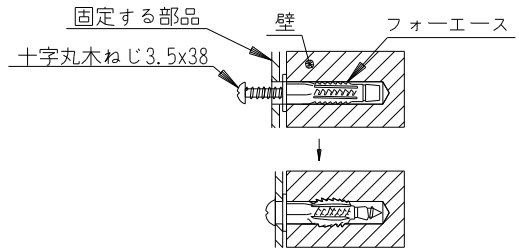
② 壁が抜けていない場合

下穴径---6.4mm

深さ-----40mm以上

※下穴にフォーエースを入れるとき、軽くたたいて入れます。

入りにくい場合は入り口付近を8mmに広げてください。



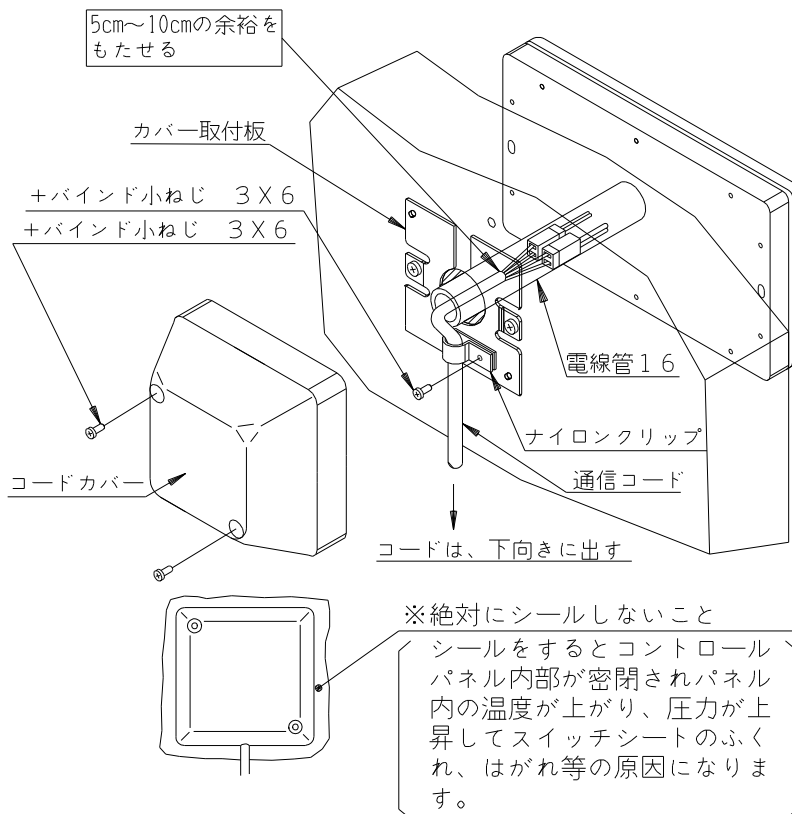
⑨ コントロールパネル側と本体側の通信コードのコネクターを接続し、コネクター部分を電線管16の中に押し込み、通信コードをナイロンクリップでカバー取付板に固定する。

※コードは、必ず下側から出るようにしてください。

※通信コードをナイロンクリップで固定するときは、コントロールパネル側のコード部分に5cm~10cmの余裕をもたせてください。

⑩ コードカバーを+バインド小ねじでカバー取付板に取り付ける。

※コードカバーのまわりは、絶対にシールしないでください。



※付属の通信コードが短い場合、ロング通信コード(10m、オプション)(917543102)を使用してください。

5. 電気の配線・アース工事

- ① 電源コード、通信コードの余った部分は、巻いてまとめて壁等に固定する。
※コードは、地面をはわせたり、浸水するような場所には置かないでください。
※余ったコードを小さく折りたたんだり、きつく束ねたり、袋に入れたりしないでください。
※余ったコードを本体内に収納しないでください。本体内の発熱部に接触してコードの表面が傷みます。
- ② アース線を接続する。アース線は、電源プラグのアース用端子と接続するか、または本体ベース部と接続するかどちらかを行ってください。
※アース工事の詳細については、「接地工事説明書」を参照し確実に行ってください。

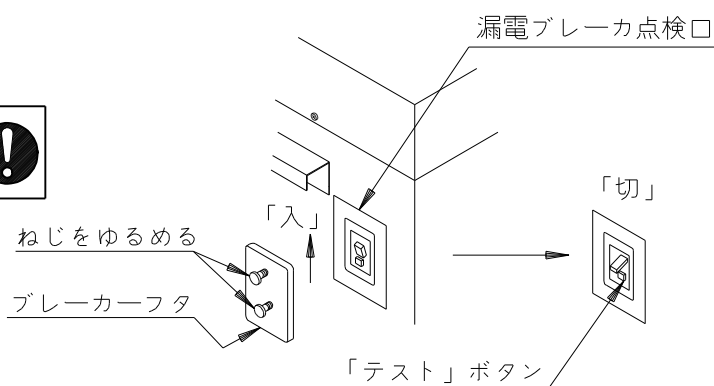
6. 配線の確認

- ① 電源プラグをコンセントに差し込み、漏電ブレーカ点検口のフタ（ブレーカーフタ）を開けて漏電ブレーカのスイッチを入れる。ブレーカーフタのネジは、ゆるめるだけで抜く必要はありません。
※コントロールパネルの「運転」ランプが点灯した場合は、「運転」キーを押して消灯してください。
※時計表示部に「99 14」、または「99 15」が表示されたときは、通信コードのコネクタの接続を点検してください。エラー表示を消すには、再度、ブレーカの電源を入れ直してください。
※時計表示部に「55 17」が表示されたときは、取り扱い説明書の「こんなときには」の「チェックメッセージが表示された」を参照して対処してください。

※抜け止め機構付きコンセントは差し込んでから時計方向に回して、確実にロックしてください。

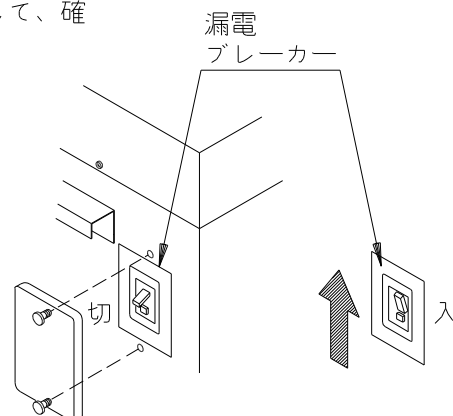


- ② 漏電ブレーカのテストボタンを押し「切」の状態になることを確認する。
- ③ 漏電ブレーカのレバーを再度上側に倒し、「入」の状態にする。



7. 試運転

- ① 本体側面の2ヶ所の水抜き用ドレン（ポンプドレン・配管ドレン）のねじが締まっていることを確認する。
※ねじは、マイナスドライバーなどを使用して軽く締めつけてください。
- ② 電源プラグをコンセントに差し込み、本体内蔵の漏電ブレーカのスイッチを入れる。
※ろ過タンクや浴槽に水をはるときは、必ず本機の電源が入っている状態で行ってください。
電源が入っていない状態で行うと、浴槽の水がろ過タンクからあふれたり、ろ過タンクの水が本体外部に排水されてしまうことがあります。
※ブレーカーふたのネジは、ゆるめるだけで抜く必要はありません。
※抜け止め機構付きコンセントは差し込んでから時計方向に回して、確実にロックしてください。



- ③ 防水カバーとCLタンクのふたを取り外し、CLタンクの中にCLパック（クリーンパック）4本を入れてふたを閉める。
 ※ふたを締める時は、ふたがストッパーに当たるまで回してください。
 ※CLパックのセットは、必ず電源を入れた状態で行ってください。
 （手順②参照）

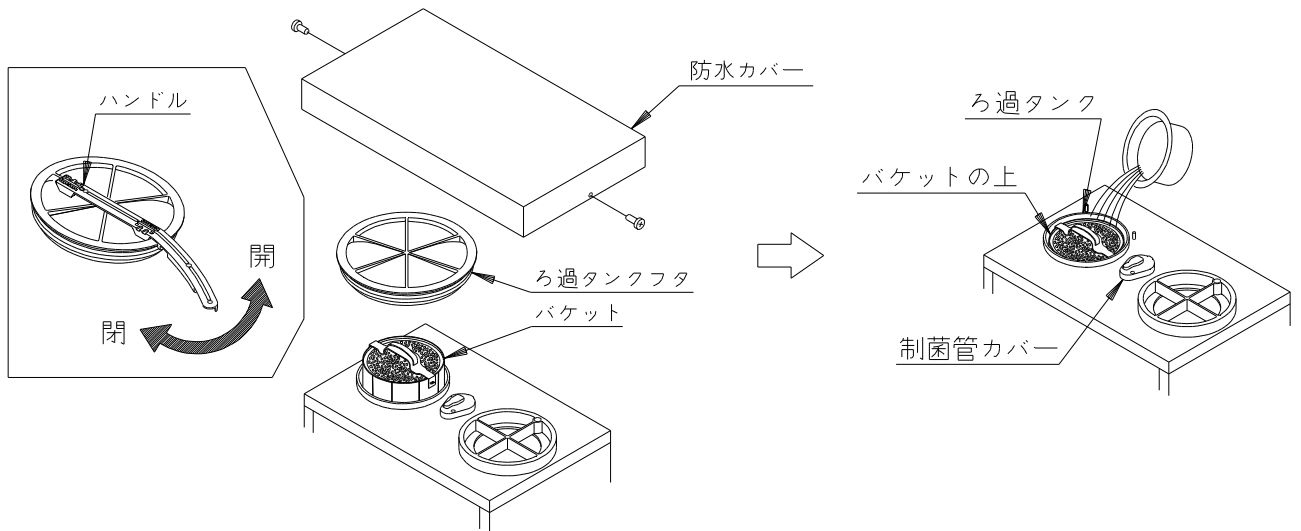
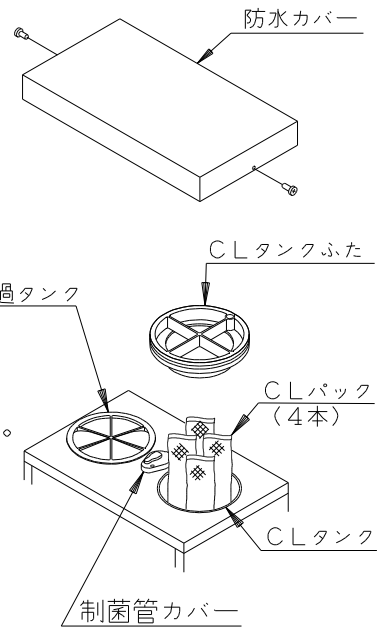
※新しいCLパックは、外側のフィルムパック（銀色）をやぶって取り出してください。CLパックの袋（白色）は絶対にやぶかないでください。

袋の中の電解促進剤を直接入れると、運転が正常に行われず、故障の原因になります。

※CLパックをふたではさまないように注意してください。

- ④ 浴槽が空になっていることを確認し、ろ過タンクふたを取り外して、ろ過材（活性炭・バインド活性炭）を入れたバケットをセットする。
 ※浴槽に湯がはっていると、ろ過タンクから水があふれる場合があります。
 ※ふたの開閉には付属のハンドルを使用してください。
 ※新しいバインド活性炭は黒い粉が多少出ますので、洗ってからお使いください。

- ⑤ ろ過タンクに水または湯をはり、バケットを上からたいらになるように押し込んで、ふたを閉める。
 （循環ポンプの呼び水）
 ※水をはり始めるとバケットが少し浮き上がります。
 しばらくして沈み込んだ状態で、バケットの上付近まではってください。
 ※制菌管カバーやCLタンクふたなど、周辺に水をかけないように注意してください。
 ※ふたは手でしめたあと、ハンドルで軽くしめつけてください。



- ⑥ プレフィルターケースにヘアーキャッチャーシートをセットし、浴槽に湯をはる。
 ※浴槽の湯が、吐出口の穴の上10cm以下にならないように注意してください。
 浴槽水が少なくなると、大きな水音がしたり、浴槽水を浴槽外に噴き出すおそれがあります。

- ⑦ 「運転」キーを押す。
 「運転」ランプが点灯して、運転を開始する。

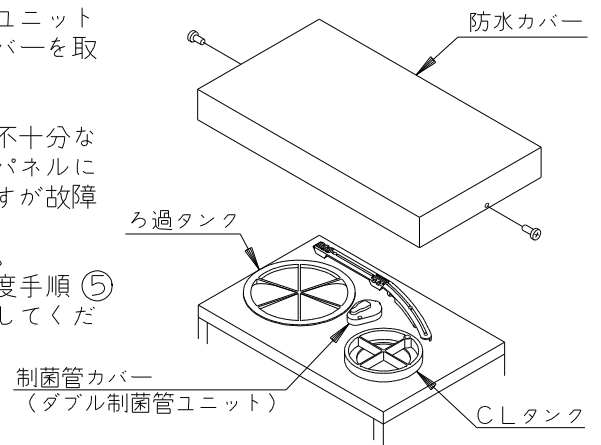
- ⑧ 運転開始後、吐出ノズルから大きな泡が出なくなったら「アフタークリーン」キーを押して、運転状態を確認する。
 ※運転を開始すると、はじめは本体内部にたまっている空気が吐出ノズルから大きな泡となって出ます。
 泡が出なくなったら「アフタークリーン」キーを押して運転状態を確認してください。小さな泡が勢よく連続して出れば正常です。

- ⑨ 運転後、ろ過タンクやCLタンクおよびダブル制菌管ユニットのまわりから水がもれていないことを確認し、防水カバーを取り付ける。

※本体の設置条件によっては、ろ過タンクの水はりが不十分なときなどに、運転を開始してから約3分後に、操作パネルに「水不足」が表示され、運転停止することがありますが故障ではありません。

その場合はもう一度「運転」キーを押してください。

それでも「水不足」表示で停止する場合は、もう一度手順⑤からの操作（ろ過タンクの水はりと運転）を繰り返してください。



8. 動作確認（水漏れ、エア吸い、浴水循環量の確認）

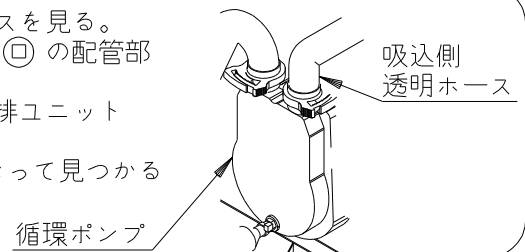
配管部分、本体部分の水漏れおよびエア吸いのないこと、浴水循環量が正常なことを確認する。特に接着部やシールテープ接続部、ろ過タンクのふた部などの水漏れ、エア吸いがないか注意する。

- ① 運転状態でコントロールパネルの「アフタークリーン」キーを押して、運転中に配管接続部、吸排ユニット、ろ過タンクのふたなどから水が漏れていないことを確認する。
- ② もう一度「アフタークリーン」キーを押し（アフタークリーンを取消し）吸排ユニットの吹出口から泡が出ないことを確認する。
 ※運転開始後しばらくは、本体内部に残っている空気が出るため吹出口から泡が出ますが、安定した循環状態で、正常な場合は泡が出ません。吹出口から泡が出ている場合は、
 ① 吸排ユニットから循環ポンプまでの、湯の吸込側配管部のどこからかエア吸いしている。
 ② 吸排ユニットのエア吸い口から本体側面のエア吸い接続口までの、エア吸い配管部のどこからかエア吸いしている。
 の2通り考えられます。
 各配管接続部の接着やシールが確実にされているか確認してください。（前記2. 吸排ユニットの取り付け、3. 本体の配管・排水口の配管の図を参照）

吹出口から泡が出ている場合、循環ポンプの吸込側透明ホースを見る。湯の流れに混ざって泡が見える場合は①、見えない場合は②の配管部からエア吸いしている。

※ ① の場合の原因として、フィルターケースフランジと吸排ユニットの締め付けが弱い場合が多いので確認してください。

※ なお、運転停止状態にすると接続不良箇所から水漏れとなって見つかる場合もありますので確認してください。

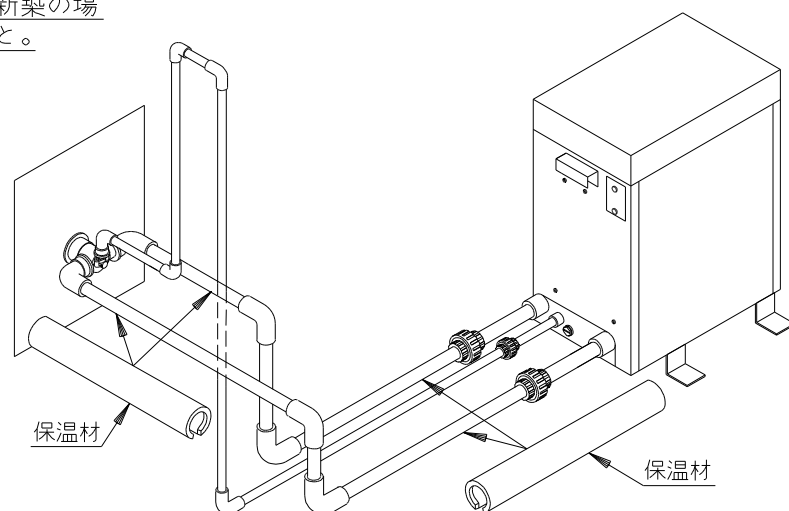


- ③ 「アフタークリーン」キーを押して、吹出口から小さな泡が勢いよく連続して出ることを確認する。
 ※配管の一部が何かの原因でふさがっていたり、エアを吸っていたり、水漏れしていたりして循環量が少ない場合、小さな泡が勢いよく出ません。
- ④ フィルターケースフランジを締め直す。締め直したあとにもう一度、運転中および運転停止時に吸排ユニット取り付け部から水漏れ、エア吸いがないことを再確認する。
 ※フィルターケースフランジの締め付けトルクは、1000N・cm(100kgf・cm)です。
- ⑤ 運転状態から運転停止状態にし、パネルフタ内の「変更」キーを押しながら「確定」キーを押して水抜きモード状態にする。この時排水管付近に水漏れがないか確認をする。水抜きモードを中止する場合は電源を入れ直してください。

9. 保温材工事

保温材工事は、必ず上記8. 動作確認のあとに行ってください。

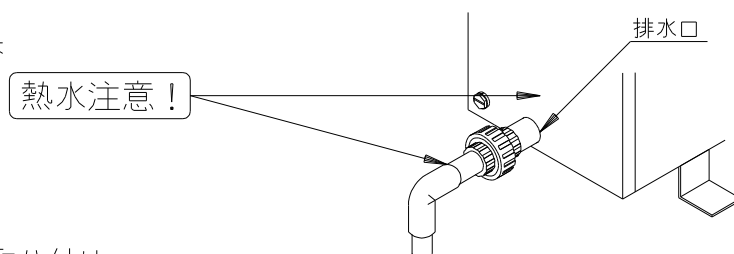
- ① 動作確認を行ない、正常に運転が始まったら、吸排ユニットから本体の塩ビパイプ25Aの配管部に市販の保温材を巻く。
※保温工事が不十分だと浴水の温度がコントロールできない場合があります。
- ② 外壁に開けた穴は、メンテナンスに必要なため、着脱可能な方法でふさぐこと。新築の場合も、同様に着脱可能にしておくこと。



10. 「熱水注意」シールの貼り付け

排水口からは熱水が出るので付属の「熱水注意」のシールを排水口の配管部または本体の排水口の近くなど目立つところに貼ってください。

※排水口が本体と離れた所にあるときは配管部に貼って下さい。



11. 防水カバー・ブレーカーフタの取り付け

ろ過タンクふたから水が漏れていないことを確認したあと、防水カバーおよびブレーカーふたをねじで確実に取り付けてください。（外部からの浸水を防ぎます。）